

令和5年度第1回運営推進会議 グループホーム暖らん 結果報告

日時：令和5年5月30日（火曜） 15時00分～15時45分

出席者 地区代表委員、民生児童委員、出雲市高齢者あんしん支援センター

出雲市高齢者福祉課、理事長、暖らん管理者

1. 利用状況（5月28日現在）

現入居者 9名（定員9名）

① 年齢別

平均 90.9 歳

	男	女
80歳代	0	2
90歳代	1	6

② 要介護度別

平均要介護度 2.7

	男	女
要介護1	0	1
要介護2	1	2
要介護3	0	4
要介護4	0	0
要介護5	0	1

利用待機者 8名

質問：利用待機者の入居希望提出年はどのような範囲か。

回答：開設して1年目のものから最近までにわたっている。入居者を決定する場合、必ずしも古い希望者から順に、ということではない。緊急性、認知症の病状、集団生活の適否、医療処置の必要度などを考慮している。

2. 3月下旬頃からの行事、活動など

別紙「暖らん便り」no.22をご覧ください。暖らん便りは隔月で作成。家族に送付している。

4月19日は暖らんの開所記念日でした。5年目に入りました。ご利用者の皆さんで臼と杵で餅をつき、返し、丸めたお餅を、ご近所、法人や事業所の役員の方などにお配りしました。

3. 外部評価の結果について（別紙資料参照）

外部評価は運営基準に定められている。令和4年度の外部評価を委託した評価機関から別紙のように結果を得て、出雲市に報告し、家族に送付した。5年度の達成目標を別紙のように作成して、取り組みを開始している。WEB（福祉医療機構 WAMNET）上にも公開されている。

個別の評価項目のうち、今後期待されることとして、「運営推進会議での報告、意見、助言などを更にサービスや運営に活かしてゆく取り組みを」という趣旨の指摘があり改善したいと考えている。

質問：評価項目の評価者の記入欄に斜線が引かれているものは、元々記入の対象となっていないのか、または、評価者がこの度は記入の必要を認めなかったものなのか。

回答：評価機関に尋ねてお答えしたい。

4. 出雲市介護サービス相談員の訪問

過去2年以上、新型コロナウイルス感染予防のため受け入れていなかった。5月9日に出雲市が委嘱する相談員2名が来所して1時間程度で行われた。はじめ管理者からの聞き取りがあり、その後、所内を見学、利用者とは30分程度話を聞いていた。活動記録が市に提出される。年3回実施され、次回は9月。

5. 火災避難・消火訓練

5月26日（金）SECOMと連携して実施した。（今年3月から導入しているが、前回運営推進会議で役割分担、手順など確認しては、との助言があった）

設定：深夜、夜勤職員1人、焦げ臭い匂いがある

→ SECOM 通報ボタンを押し、待機職員に電話連絡 → 職員連絡網

SECOMと確認したこと

警備本部または直近巡回警備員が通報を受けてから5分~10分以内に到着

消防設備の火災警報と連動してSECOMにも通報され駆けつける。

防犯、火災のほか介護現場での緊急事態で通報し、応援してもらえる

夜間行方不明者があった場合、夜間の複数利用者の急変、事故等の応援

→ 利用者の安全確保と同時に、職員にとっては1人での夜間勤務の負担軽減となる

職員電話連絡網、応援体制、利用者避難経路、避難方法を確認した

訓練用消火器を使用した職員の消火訓練を行なった

SECOMの総評：概ね避難行動はできていた。火災避難の際には煙の吸い込みを防ぐため身を低くしてタオルなどを当てると良い。

質問：訓練の設定はもっといろいろな状況を想定して実施する必要があるのではないか。例えば、日中、入浴中の利用者がある場合に行う、または深夜に実際に訓練をしてみてもどうか。

回答：更にいろいろな状況設定で訓練を重ねてゆきたい。

質問：夜勤の勤務時間、ひとりになる時間帯はどうか。

回答：夜勤は16時半から9時半まで。1人になる時間帯は、夜19時半から朝の9時半である。

6. 研修

4月28日（金）職員会 認知症研修：4年度認知症介護実践者研修修了者の成果報告
米麴甘酒の便秘改善効果について

5月26日（金）職員会 ハラスメント研修：介護現場におけるハラスメントについて
認知症研修：応用行動分析による認知症ケア

7. 事故、ヒヤリハット

事故報告はない

ヒヤリハットは4月3件、5月4件あった。

窓の外に出てフェンスに毛布を干していた。
立った時ふらつきがあり、支えた。
自立歩行できない人が、ベッドの端に足を下ろして座っていた。
他利用者のお茶を飲もうとしていた。 など

8. 職員構成（本日現在）

管理者・計画作成担当者（兼務）	1
介護職員（フルタイム）	7
介護職員（パートタイム）	2
主に調理担当（パートタイム）	1
計	11

他に産休中が2人

質問：一般に介護人材の確保は困難とのことだが、どうか。現在は充足している状況か。産休の人もあるようだが。

回答：現在は、なんとか充足に近い状態であるが、数ヶ月、1年といった期間では、不足している時期があった。その間には、新たに勤めても、まもなく退職するというケースも稀ではなかった。慢性的に苦勞しているという状況はある。

産休の人がある場合、完全に補充した場合、産休から復帰した時に人員に余剰ができることがある。どのように一時的に補充するか、他施設からの一時的な異動など工夫している。

質問：人材確保という面では出雲市では取り組みをされているか。

回答：介護の仕事の魅力を発信する取り組み、職場への定着のための研修実施や補助制度、若手人材の交流の場作り、各職場の情報発信、外国人人材の紹介など行っている。

9. その他

- ・運営推進会議への利用者、家族の参加のためにどのような方策があるか。他施設ではどうか。

意見：利用者、家族の出席は運営基準に定められているので、出席してもらえるよう努めてもらいたい。知る限りでは、利用者の出席はないか、または少ない。

意見：グループホーム入居者では、身寄りが少ない、親族が遠方にいる、などの方が多く実態はある。